

# 平成26年度 学校評価実施報告書

(別添様式3)

## 3 2回目評価

学校名( 京都市立明德幼稚園 )

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にわらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
						評価日	H27・3・10	評価日	
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・ 各種指標	アンケート結果・ 各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学 校評議員による改 善に向けた支援策
1	遊 び の 充 実	遊びへの意欲・充 実感について(年 長) 心の安定・自己 充実について(年 少)	子どもの実態や課題、育 てたい姿を考慮したう えでの保育内容の設定・実 施・環境構成・援助。	年長組…子どもは自分の めあてをもって幼稚園で遊 びを楽しんでいるか 年少組…子どもはあり のままの姿を出して幼 稚園で遊びを楽しんで いるか	⇒	年長組…「めあてをもつ」 ということは高度なこと である。「大体」という回答が 多かったのは、判断が難し い面があったのではない か。年少組…子どもたち が安定して園生活を送っ ていると保護者の方も感じ ているようだ。	更なる生活の充実をはか り、子どもたちがめあてを もてる生活を展開してい きたい。子どもたちの遊びの 充実、生活の中で大切に したいことについて保護者 へ密な発信を心がけてい きたい。	⇒	子どもたちが概ね安定し て幼稚園での生活を送っ ていることは喜ばしい。 子どもたちの生活の充実 のために、行事等で協力 できることは、これからも 協力していきたい。
2	豊 か な 心	集団への意識、 協働性について (年長) 友だちへの意識、 一緒に遊ぶこと への喜び(年少)	集団での活動の意図的な組 み込み。異年齢ペア活動 や、当番活動などの実施	年長組…集団と自分を 意識して遊んでいるか 年少組…子どもは学級 の友達と遊ぶことを楽 しんでいるか 全園児…絵本やお話の世界に親し んだり、イメージを膨らませて遊ん だりしているか	⇒	すべての保護者が、友達 とのつながり、集団を感じ るということに関して理解 をしてくださっているものと 思われる。	これから個に応じた人 とのつながりに向けての援 助を丁寧に重ねていく。ま た、集団の中で生活するこ とのうち、育っている姿 をより丁寧に発信してい く。	⇒	集団の中で生活すること のできる良さをこれか らも生かして生活を重ね てほしい。
3	子 育 て 支 援	生活習慣の確立 に向けての働き かけ 園内の教職員の 支援について	個の生活習慣の確立の実 態を把握するとともに、日 々の生活の中で援助。	お家の人は生活習慣の確 立や自立に向けて意識し ながら関わっているか お家の人は、子どもが担任以外の 教職員にもサポートしてもらって いると感じるか	⇒	保護者が、生活習慣の確 立を目指して取り組んで いる姿が感じられる。	それぞれの生活習慣の確 立に向けて、保護者との連 携を密にすることの大切 さを感じる。送り迎えの機 会を生かしていきたい。	⇒	園の教職員のチーム ワークを感じる。園が一 丸となって取り組む姿勢 をこれからも大切にし てほしい。
4	連 携 交 流 ・ 発 信 説 明	近隣の学校との 交流について 園の情報発信、 保護者との連携 について	小学校と給食交流・授業 での交流(年長)中学校授業 交流チャレンジ体験の交流	幼稚園は小学校や中 学校との連携や交流を 図っていると感じるか 園は教育方針や子ども の様子をわかりやすく伝 えていると感じるか	⇒	年長組は小学校との交流 があった分、数値的に高い結 果となった。他校種だけ ではなく、園内の異年齢 の子ども同士のかかわり を密にしてほしいとの意 見有。おたよりやホーム ページの発信については 、発行時期、内容について 個別の意見をいただいた。	小学校との連携の在り方、 中学校との連携の際の密 な相談などについて検討 していきたい。また、園 内の異年齢児交流につ いては、今年度の成果を 生かし、より良いものにな るよう検討していきたい。 発信の仕方については、 多様な保護者の生活に 合ったやり方を探してい きたい。	⇒	交流が行われているこ とは喜ばしい。小学校 との交流は年長のみとな っているが、隣り合う学 校としてより密な交流が できるようあり方を検討 してはどうか。

## 4 総括・次年度の課題

保護者の方の、園で子どもたちの育ちについての捉えは、適合度としては高いと感じる。園での生活や、園が大切にしたいことを理解して通わせてくださっている。子どもの育ちがよりしっかりと伝わり、より育ちを実感してもらえるためには、更なる保育の充実にむけて、園の教職員が一丸となって取り組むことと、よりの確かな発信にむけて努力することが大切と感じる。また、連携や交流・発信について、個別の意見の中には、更なる充実を望むもの、より知りたい情報などについて書かれていた。発信しているものの中から、足りないものについては、次年度丁寧な発信を心がけたい。